



秋葉道・木の駅ニュース

「山から生まれる 地域のシアワセ」

平成 25年2月1日第3号 発行：秋葉道・木の駅プロジェクト実行委員会

代表：太田一元

昨年9月から開始した、第2回秋葉道・木の駅プロジェクトも1月31日をもって終了しました。引き続き第3回目開催に向けて、準備が行われております。次回はぜひご参加お待ちしております。さて今回の木の駅ニュースは、第2回秋葉道・木の駅プロジェクトの報告を行います。



山稼ぎ人養成講座を開催しました。

秋葉道・木の駅参加者から、「いかに木を売るか？学んでみたい」、「搬出技術を学んでたくさん木を出してみたい」との要望をうけ、山稼ぎ人養成講座を開催しました。



第一回「木はどのように売れるのか？」昨年10月20・21日名古屋港木材倉庫チップ工場・HOLZ三河木材市場の見学。木の駅に出荷された木材がどのように運搬・加工されるのか？、名古屋港木材倉庫の小栗さんから木材チップ受入事業のご説明いただきました。HOLZ三河では、愛知県森林組合連合会 中野所長から価値の出る丸太造材と最近の木材市況についてお聞きしました。

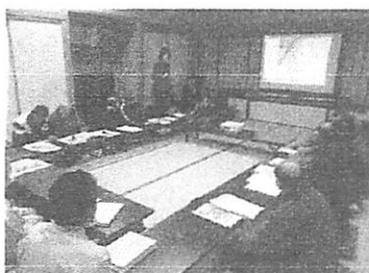


厳しい木材市況、建材で売るか？木の駅で地域通貨に換えるか…？

第二回「簡易出材技術を学ぶ」H24年10月27・28日 引地地区の以前に森林真剣隊の指導で間伐した山林で、エンジンウインチを活用した下げ荷の木材搬出を試めし、次日は搬出作業における安全対策について検討を行いました。引地のUさんは「山主たちが集まってワイワイやりながら、ポチポチやる林業も面白いもんだな」ぼつりとおっしゃりました。事務局では、地元の山主さんの要望にお応えして、林内作業車操作や立木評価等、以降も様々な勉強会を開催していきたいと思っています。



新城市森林整備計画説明会を開催してもらいました。



実は、H22年から国の森林・林業政策が大きく変わりました。その名も「森林・林業再生プラン」。この中で、目玉は、国産材自給率50%をめざす！（現在は約20%）ということです。またこの目標を達成するための推進方策として、従来いくらか形骸化していた森林施業計画の運用を見直し、森に近い市町村が、新たに森林づくりの構想＝森林整備計画を策定することになりました。（もちろん国・県の上部計画は存在しますが）この計画が基礎となって、今後の新城市の森林活用の枠組みが定まります（補助率とか、利用制限とか…）。うーんなんか難しそうだけど、山主にとっては重要そうだから噛み砕いて聞いてみようか？という次第。3Dで森林が見られる機械なども使って、これから使える補助事業とか、森林課の担当にいろいろ聞いてみました。今後、秋葉道・木の駅実行委員会と森林課で地域の森づくりに何ができるか？まずは第一歩です。